旅行業・運輸

働き方提案など新事業開発

JR東日本 西武HD　包括的連携を締結

JR東日本と西武ホールディングス（HD）は12月23日、「新たなライフスタイルの創造×地方創生」を連携コンセプトに包括的連携を結んだことを発表した。①新しい働き方・暮らし方の提案②まちづくりに向けた長期的な連携③沿線活性化に向けた連携―の三つが軸。それぞれの強みを生かし、ワーケーション、MaaS、DXの活用など新規事業を開発、展開する。

連携開始に当たり、東京・品川にある西武HDグループのグランドプリンスホテル高輪で記者会見を開催。JR東日本の深澤祐二社長は「JR東日本の強みである長距離輸送が可能な路線網と西武HDの強みである豊富なホテル、レジャー施設とそのノウハウを掛け合わせる」と述べ、場所や時間に捉われないライフスタイルの提供、事業者間のスムーズな連動を行うことを強調した。西武HDの後藤高志社長は「より住みやすく働きやすい社会を実現し、両社、地方にもメリットがある三方良しの事業としたい」と語った。

新しい働き方・暮らし方の提案では、ワーケーションの浸透、拡大を図り、企業も個人も健康で幸せな「ウィルビーイング」を実現する。両者は新機軸のワーケーションとして、「ボランティアワーケーション」「移住トライアルプラン」のほか、企業向けワーケーションとしての研修プラン

深澤社長(左)と後藤社長

や、スポーツなどテーマ型ワーケーションプランを設ける。当初は軽井沢、苗場、雫石エリアで展開する予定。付加価値として、ラグジュアリー志向の旅行プラン、エビデンスの提供などを行う予定だ。また、JR東日本のシェアオフィス「STATION WORK」を新たに西武HDが保有するプリンスホテルの各施設でも展開。2023年度に1千カ所の展開を目指す。ブース型の「STATION BOOTH」は西武鉄道沿線でも展開する予定。

まちづくりに向けた長期的な連携ではMaaSを生かしたモビリティサービスを提供。軽井沢を舞台とした「観光にも生活にも使っていただける地域の足づくり」や、JR東日本が24年度ごろまちびらきを目指す「品川開発プロジェクト」と近隣の各プリンスホテルとの連携など、エリアにふさわしい新たなサービスの提供を検討している。また、拠点の開発の推進として店舗MD構成での連携など、駅やまちの活性化、価値の最大化に取り組む。

沿線活性化に向けた連携では、SDGsや地方創生などをテーマとしたオープンイノベーション推進を共同で実施。高輪ゲートウェイ駅、石神井公園駅でのマルシェ連携や、JR東日本スタートアップの事業共創プログラムと西武ラボの新規事業創出イノベーション・プログラム「SWING」の連携強化による相互のインフラの活用などを行う。

このほか、サービス連携として、プリンスホテルの「プリンス スマート イン熱海」内の飲食店舗へTOUCH TO GO社の非対面オーダー決済端末「TTG―MONSTAR」を導入するなど、ICTを活用した非接触、省力化の実現、地方創生として新たなグローバルMICEの誘致などに取り組む。

新規事業の収益化、将来の事業性について、後藤社長は「収益化はこれから検討する。利益を生み、地域にもメリットがあるようにしたい」と話した。長期的な現業での協力について深澤社長は「鉄道など似たところは連携したい」と述べた。

エジプトと中継 ツアー追加販売

クラブツーリズム

クラブツーリズムは2月3日、オンラインツアー「エジプト考古学博物館と中継！ エジプト神話とツタンカーメンに出会う」を催行する。ツアーは、11月28日に実施して好評だった（151人参加）ことから追加販売。特別な許可を得た「ツタンカーメン黄金マスク」との対面も用意する。

イメージ

同ツアーは、ウェブ会議システムZoomを使い、エジプト考古学博物館から生配信。同館が所蔵するツタンカーメンの黄金マスクや数々の展示品を、同社19年ベストガイドを受賞した日本語ガイドのアムル氏が紹介する。また、展示品に関するクイズやチャットに寄せられた質問に対してリアルタイムで回答する。

料金は「国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 天地創造の神話」入場券付きが1人3500円、入場券なしが1人2千円。中継時間は75分。

Go To 一時停止

年末年始の国内旅行 総消費額3200億円減

JTB総研発表

JTB総合研究所は12月24日、新型コロナ感染症拡大を受けた「GoToトラベルキャンペーン」の全国一時停止措置によって、年末年始の国内旅行が総消費額で3187億1千万円減少するとの推計値を発表した。

同社は12月当初、年末年始の国内旅行者について前年比40・0％減の1755万人、総消費額で5794億7千万円と予想していた。しかし、感染拡大、需要喚起策の一時停止を受け、これを前年比73％減の790万2千人、2607億6千万円に引き下げた。

推計値は、各種消費者アンケート、経済指標、観光統計、宿泊施設や交通機関の予約状況などから算出した。年末年始の期間は、前年と比較するために2020年12月23日～21年1月3日出発分としている。

年末年始　国内旅行の推計について

	2019/20年 実績推計	2020/21年 12月当初の推計値	2020/21年 GoTo全国一時停止措置後 再推計（12月24日現在）
前年比	97.9%	60%	27%
国内旅行者数	2926.6万人	1755.0万人	790.2万人
一人当たりの平均費用	32,000円／人	33,000円／人	33,000円／人
国内旅行総消費額	9,365億円	5794.7億円	2607.6億円
			GoTo全国一時停止による消費減少額 ▲3187.1億円

＊国内旅行者数は、宿泊を伴う旅行者数の人数（観光および帰省目的の旅行）、国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む。各種キャンペーンによる補填額は含まれない。

総合1位「箱根・芦ノ湖 はなをり」

Relux 20年人気宿ランキング発表

旅館・ホテルの宿泊予約アプリ「Relux（リラックス）」を運営するLoco Partnersはこのほど、Reluxに掲載のある約3200施設を対象とした人気宿ランキング「Relux OF THE YEAR2020」を発表した。宿泊利用実績などをもとにした総合ランキングの第1位には「箱根・芦ノ湖 はなをり」（神奈川県・箱根）、Reluxカスタマーからのレビュー評価を点数化した満足度ランキングの第1位には「由布院六花」（大分県・湯布院）を選出した。

ランキングは、Reluxの19年12月1日から20年11月30日までのチェックアウト数を元に集計された。

総合ランキングでは、都心から車で2、3時間とアクセスが良く、開放的な自然を満喫しながら、宿でのんびり過ごすリゾートや旅館が上位にランクイン。1位の箱根・芦ノ湖 はなをりは3年連続で1位を獲得。家族やカップル、女子旅など幅広い顧客層から評価を得た。「あらゆる旅行シーンでも特別な旅行体験を実現できることが人気の秘訣（ひけつ）」と同社。

満足度ランキングでは、旅館タイプのランクインが目立ち、接客、サービスで高く評価された宿泊施設が上位に選ばれた。1位には18年9月の開業から2年連続で満足度ランキングトップ10に入選した由布院 六花が選出。6棟の離れの客室には半露天風呂が併設され、一人旅から家族旅行まで幅広い層から高評価を得た。

このほか、今回からReluxが独自のテーマ別ランキングを開設。人生で一度は訪れたい極上の宿を紹介する「Relux Premium」の1位には「ザ・プリンス パークタワー東京」（東京都・芝公園）、客室で温泉を満喫したり、食事を楽しんだり、宿でのんびり過ごす「おこもり宿」の1位には「粋松亭」（静岡県・土肥）が選出された。

総合ランキングトップ10は次の通り。

■総合ランキング

1位・箱根・芦ノ湖 はなをり（神奈川県・箱根）▽2位・ハレクラニ沖縄（沖縄県・恩納村）▽3位・ふふ 河口湖（山梨県・河口湖）▽4位・神戸みなと温泉 蓮（兵庫県・神戸）▽5位・天翠茶寮（神奈川県・箱根）▽6位・強羅花扇 円かの杜（同・同）▽7位・ふたり とわに縁（静岡県・土肥）▽8位・食べるお宿 浜の湯（同・稲取）▽9位・伊豆マリオットホテル修善寺（同・修善寺）▽10位・熱海 ふふ（同・熱海）

鳥海高太朗の 交通トレンド分析 ―82―

コロナ禍でも国内線新路線拡大するピーチ

12月24日にピーチが中部国際空港（セントレア）に新たに乗り入れ、同日より新千歳、仙台の2路線に就航し、さらに1月22日には那覇、石垣島の2路線にも就航し、一気に4路線に就航する。他の航空会社では路線撤退が進む中で、国内線だけではあるが積極的な新路線展開を進めているのが現在のピーチである。新型コロナウイルスの影響で国際線の再開のめどが立たない中で、当初2～3年かけて国内線新路線を増やす計画でいたものを国際線の運休によって今年度に前倒しして就航したことをピーチの森健明代表取締役CEOが12月24日に中部国際空港での囲み取材で明らかにした。今回、ピーチでは中部国際空港で夜間駐機をすることになり拠点空港の一つになる。拠点空港は、本社がある関西をはじめ、成田、新千歳、仙台、関西、福岡、那覇に次いで中部は八つ目の拠点空港となる。

国内線の路線数も12月24日現在で28路線となり、1月22日の中部―那覇、中部―石垣島の就航で30路線、2月10日に成田―女満別線で31路線、2月19日に成田―大分線で32路線となる。特に最近では成田空港発着路線を増やしており、コロナ禍の8月に宮崎線と釧路線に就航し、2月に新たに女満別線、大分線に就航するなど一気に4路線を増やし、成田発着の国内路線は14路線となり、ジェットスター・ジャパンを上回る成田発着の路線数となる。ジェットスター・ジャパンは運休便比率もピーチに比べて高く、新規就航路線はなく、逆に庄内線を既に運休しているほか、下地島（宮古島）線についても一部の日のみ運航している状況になっている。

また、発着ターミナルについても関西空港ではLCC専用の第2ターミナルを利用しているが、成田空港では10月25日には従来の第3ターミナルから鉄道駅（成田空港駅）に直結する第1ターミナルに移転するなど利便性を向上させていく。路線は今後もANAが中心になるが、関西発着・中部発着・福岡発着路線などはピーチ便での運航が増える可能性が高く、2021年もピーチは国内線を中心とした拡大路線が継続される可能性が高い。

（航空・旅行アナリスト、帝京大学非常勤講師）

月別取扱額 10月

KNT―CTHD「メイト」前年並みに回復

KNT―CTホールディングスの2020年10月の総取扱額（グループ14社計）は、前年同月比66・6％減の154億5907万円だった。国内旅行が46・1％減の145億2262万円、海外旅行が99・3％減の1億2075万円。外国人旅行は146万円の損失となった。国内企画旅行メイトは前年並みまで回復した。

国内旅行の内訳は、一般団体が86・1％減（5億1733万円）、学生団体が44・2％減（36億2261万円）。一般、学生団体ともに減少し、合計で59・4％減（41億3995万円）となった。国内企画旅行は、メイトが6・2％減の36億3241万円、クラブツーリズム国内は47・8％減の49億316万円、合計で35・6％減の85億5273万円。国内個人旅行は同46・6％減の18億2993万円だった。

海外旅行の内訳は、一般団体は98・9％減、学生団体は99・5％減で、合計が99・2％減の3143万円となった。海外企画旅行は99・9％減の2217万円、海外個人旅行は97・5％減の8714万円だった。

区分別に見ると、国内学生団体は修学旅行の再開の動きがみられたものの、国内一般団体を含め移動を避ける傾向が続き、取り扱いが減少した。国内企画旅行では、前年には至らなかったが、GoToトラベルキャンペーンの効果で家族や友人など少人数単位で催行するツアーや宿泊商品は前年並みとなった。

海外一般団体、学生団体、海外旅行企画は、国際的な新型コロナウイルス感染者拡大で旅行の中止や延期の影響や、航空路線の運休、減便が続いていることなどから取り扱いが減少した。

外国人旅行は、レイルパスなどの払い戻しなどの結果、マイナス計上となった。

JTB 国内旅行は40％減

JTBが12月24日に発表したグループ会社10社計の10月の旅行取扱額は前年対比66・0％減の538億5200万円だった。うち国内旅行は39・8％減の526億4600万円となった。

国内旅行の内訳を見ると団体旅行は63・9％減。一般団体は74・5％減、教育団体は45・9％減だった。

企画商品は41・4％減で、うちブランド「エースJTB」は24・4％減。エースは取扱人員では22・5％減となった。

海外旅行は98・4％減の8億8700万円。団体旅行が98・6％減、企画商品は99・9％減だった。国際旅行は98・0％減の3億1900万円となった。

2020年度4～10月累計では、旅行取扱額は82・7％減の1798億6800万円。国内旅行は71・4％減の1723億3200万円、海外旅行は98・8％減の45億6400万円、国際旅行は95・7％減の29億7200円となっている。

日旅「赤風」が13ヵ月ぶり増

日本旅行の2020年10月の販売実績は、総販売高が前年同月比64・0％減の149億7080万円だった。国内旅行は同社の企画商品「赤い風船」が前年同月比0・9％増と、19年9月以来、13カ月ぶりに増加。ただ、国内全体は団体旅行の大幅減で39・5％減、145億3756万円にとどまった。海外旅行（97・7％減、2億6727万円）と国際旅行（97・3％減、1億6562万円）は前年を大きく下回った。

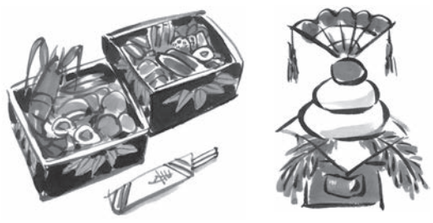
国内のうち、企画商品が2・8％減の70億4610万円と、ほぼ前年並みになった。同月はGoToトラベルキャンペーンの東京発着が解禁。その影響と見られる。自社企画の赤い風船が0・9％増の69億5651万円。他社企画は74・6％減の8958万円にとどまった。

国内団体は63・8％減の34億8164万円。一般団体（81・5％減、8億9690万円）、教育旅行団体（45・8％減、25億8473万円）とも大きく減少した。

JR券、航空券、一般宿泊などの個人旅行計は43・9％減の40億9882万円。

海外は企画商品が99・9％減の216万円。団体が99・3％減の1843万円。一般団体、教育旅行団体ともに99・3％減少した。企画商品以外の個人旅行は95・3％減。

1月からの累計は、総販が前年同期比72・9％減の1020億5527万円。このうち国内は65・0％減の814億1839万円。海外は86・49％減の140億7188万円。国際は84・2％減の64億4633万円。



「和」の旅館文化を世界に伝える

日本旅館国際女将会

北海道 登別温泉郷 滝乃家 須賀 紀子
山形 深山荘高見屋 岡崎 純子
山形 展望露天の湯 有馬館 須藤 佳子
宮城 南三陸 ホテル 観洋 阿部 憲子
宮城 ホテル松島大観荘 磯田 悠子
福島 四季彩一力 小口 潔子
福島 雨情の宿 新つた 若松 佐代子
新潟 風雅の宿 長生館 荒木 紀子
栃木 本家伴久 伴 真澄美
栃木 ホテルアオキ 青木 よしの
群馬 金盛館せいらぎ 須藤 美由貴
群馬 如心の里 ひびき野 養田 博美
群馬 万座温泉日進館 宮田まいみ
栃木 鬼怒川温泉 あさや 八木澤 美和
茨城 五浦観光ホテル 村田 和華子・村田 知世
神奈川 箱根吟遊 太田 清子
神奈川 箱根パークス吉野 西島 亜由子
静岡 白壁荘 鈴木 裕香
静岡 観音温泉 鈴木 和江
静岡 黒船ホテル 山本 未姫
石川 かよう亭 上口 和子
愛知 平野屋 平野 志保
岐阜 下呂観光ホテル しょうげつ 長坂 正恵
和歌山 冨士屋 小渕 祥子
奈良 古都の宿 むさし野 山下 育代
京都 松園荘 保津川亭 奥村 純子
兵庫 紅葉館 別庭 あざれ 松本 富子
鳥取 皆生つるや 宇田川 富美江
鹿児島 指宿白水館 下竹原 成美
熊本県 阿蘇の司ビラパークホテル&スパリゾート 國米 由公江
熊本県 黒川温泉 ふもと旅館 松崎 久美子
台湾・台中市 陳允宝泉 翁翠琦

お問い合せは 観光経済新聞社内 日本旅館国際女将会事務局
TEL.03-3827-9800 FAX.03-3827-9730 e-mail : info@kankokeizai.com

外客誘致と海外ポスピタリティ研修で1995年から活動しています。

Japan. Endless Discovery.